

二〇一三年

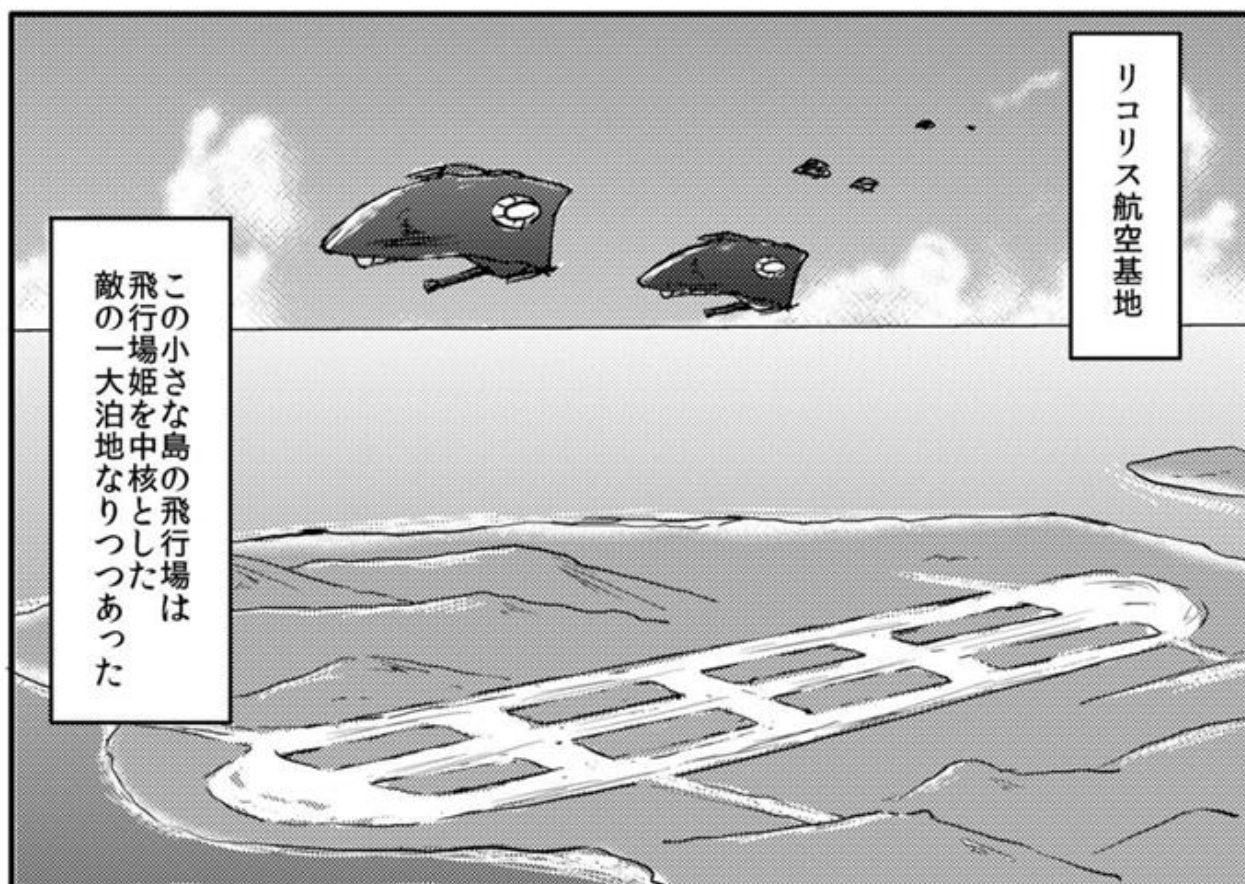
秋 作 戦



この話は
決戦！鉄底海峡を抜けて！
(二〇一三年秋イベント)
を脚色して作られたものです。

艦娘の出現により我々人類の反撃が始まった当初
誰もが彼女たちの活躍に熱狂していた。
世論は年内にはフィジー・サモアを制圧し
翌年にはハワイ・アメリカ西海岸に
到達すると信じていた。
我々海軍もそう思っていた。
しかしその展望が大きな誤りであったと気づいたのは
反撃が始まった年の11月であった。

（とある提督の回想より）



リコリス航空基地

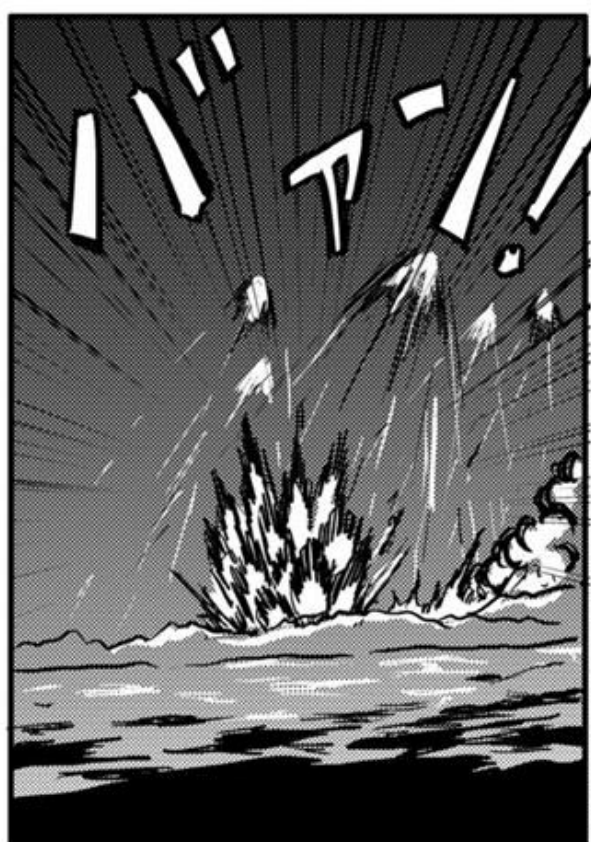
この小さな島の飛行場は
飛行場姫を中核とした
敵の一大泊地なりつつあった

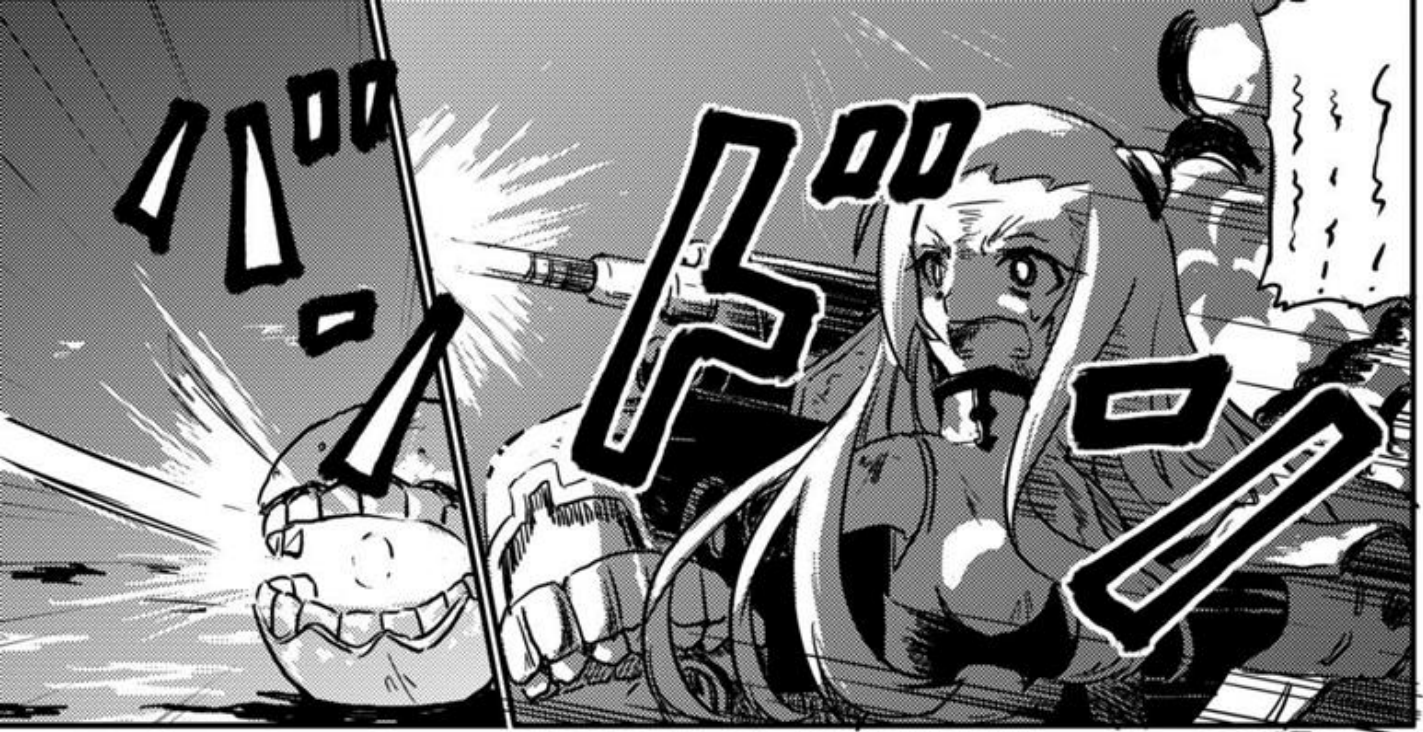


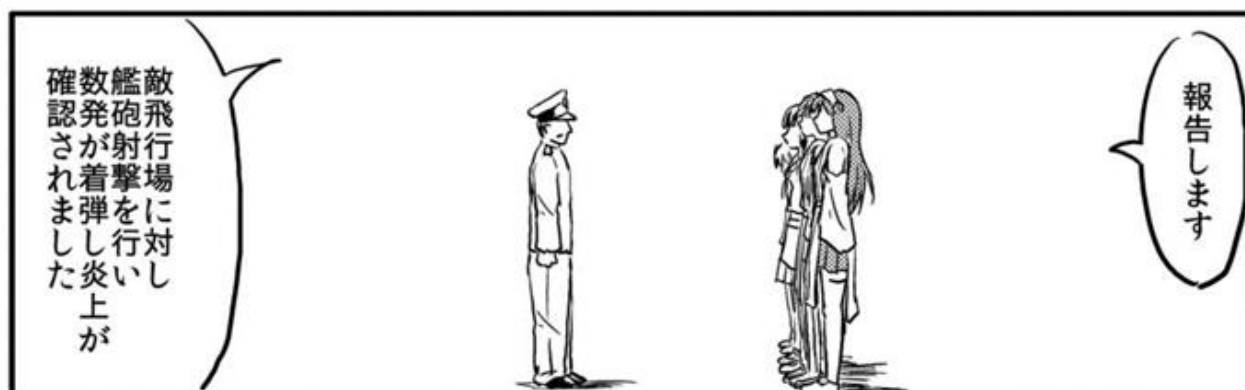
当時急速に
前線を拡大
させたわが
この飛行場
制圧するた
航空兵力が
大幅に不足
していた



そのため航空機が
十分に活動できな
夜間に艦砲射撃を
行うことが
提案された







砲艦隊には実弾すらろくに撃つことがない新兵が優先的に選ばれ

その低い帰還率から彼女たちは捨て艦と揶揄された

作戦の中止？

はい

本作戦は犠牲が多すぎますこれ以上の作戦継続は…

だが飛行場は攻撃できているだろうか？

ですが敵の抵抗は予想外に激しいです

現在の作戦では多少の被害を与えてもすぐに復旧され…

それは君が考えることではない

提督！お願いです！

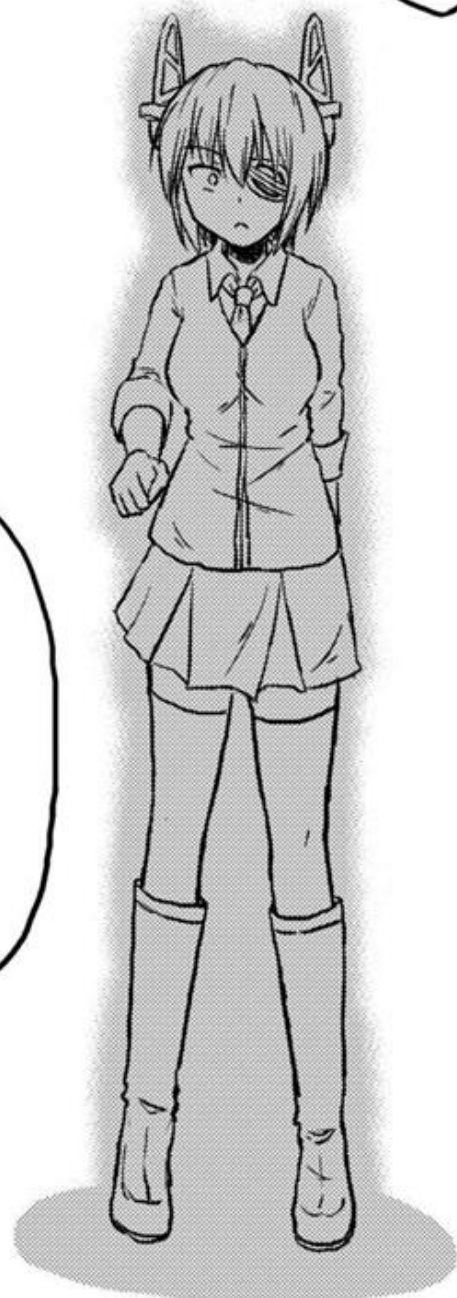








解体されて



内地行くんだって

え…

いやあいつ自体は
なんともないけど
資源ないしさ

解体された艦娘は二度と
艦娘にはなれない…

知ってるよ

いいんじゃない？
こんなクソみたいなどこ
もう来なくていいんだよ

幸せじゃん





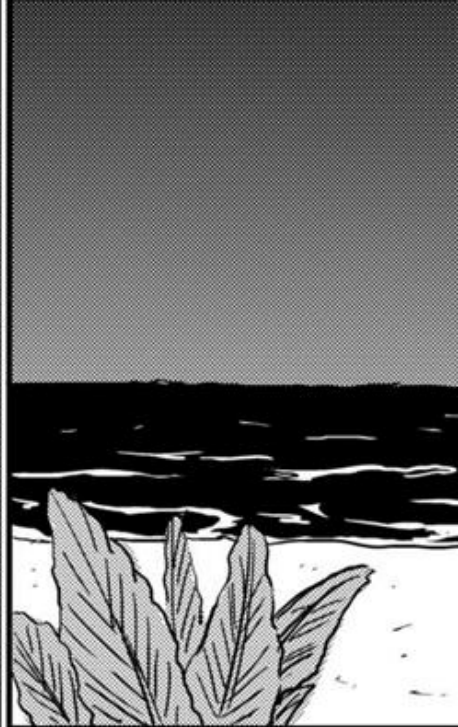
船の修理もできないような
海軍にいらんだったら







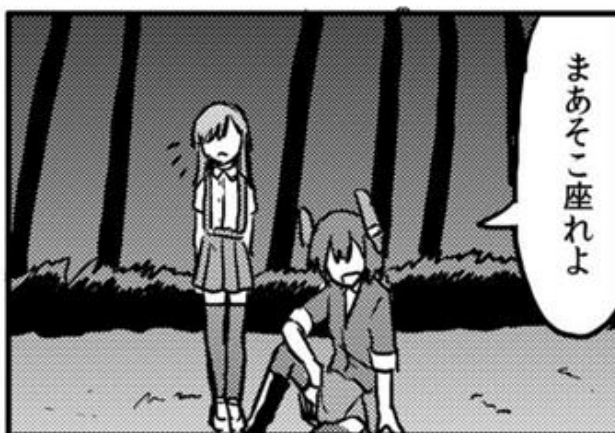






星を

見ていました



まあそこ座れよ



星か…



でも…
死ぬことを
考えると

少し怖いんです



そのために
艦娘になったんです

天龍さん私は
国のために
命をささげる
覚悟は
できています







駆逐艦は

使い捨ての
消耗品だよ



教育班だっけ？

よくやるよねー



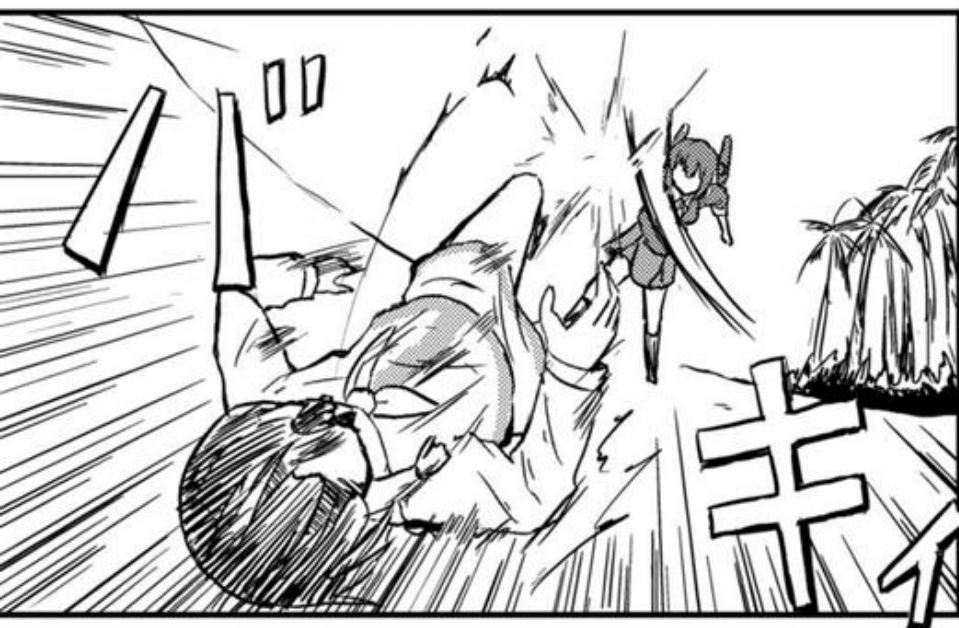
なにしてるの？

今訓練用の燃料を
申請してるんだ

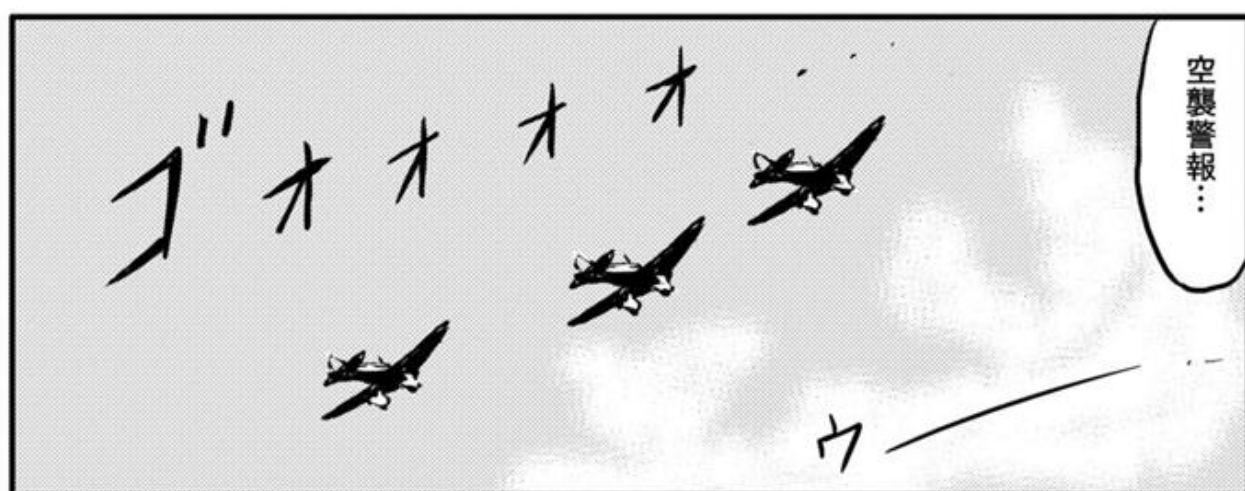


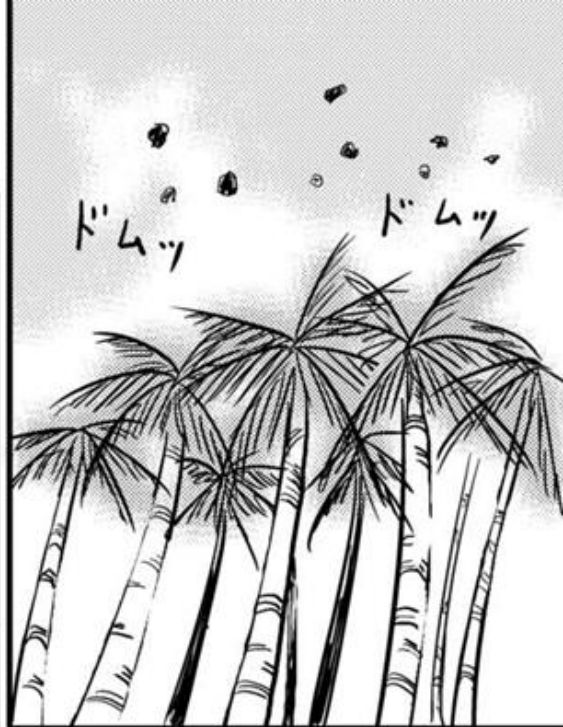
案外やることは
いっぱいなんだぜ

あのさ天龍



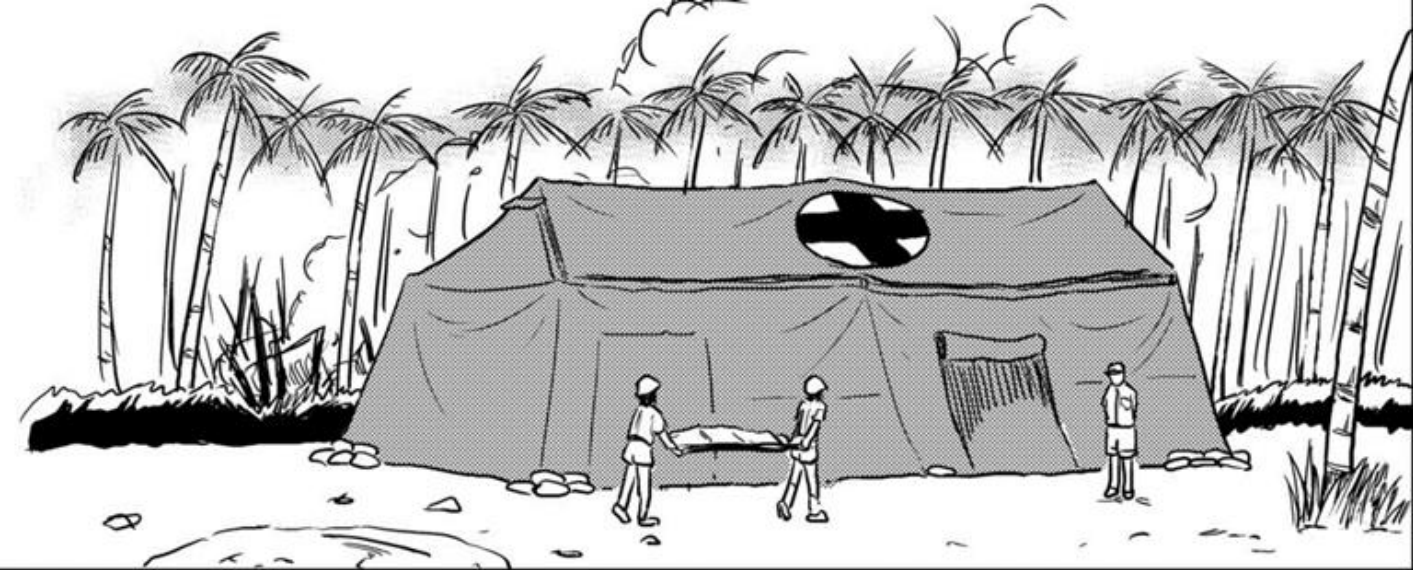












満潮ちゃん
一命はとりとめたけど

重傷ね…

満潮ちゃんの
代わりに

出撃して
くれないかしら？

ありがとうございます

朝潮ちゃんそれで
なんだけど…



いいかしら？

このタイミングで
申し訳ないけど



喜んで

引き受けます



ドン

うあつ！
被弾した！

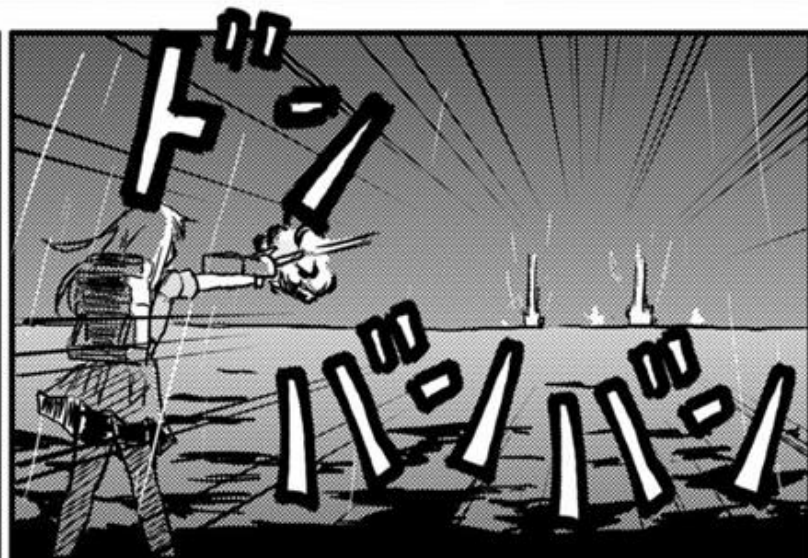
四部隊は
どうしてる！？



ズン

敵艦が
多すぎる！





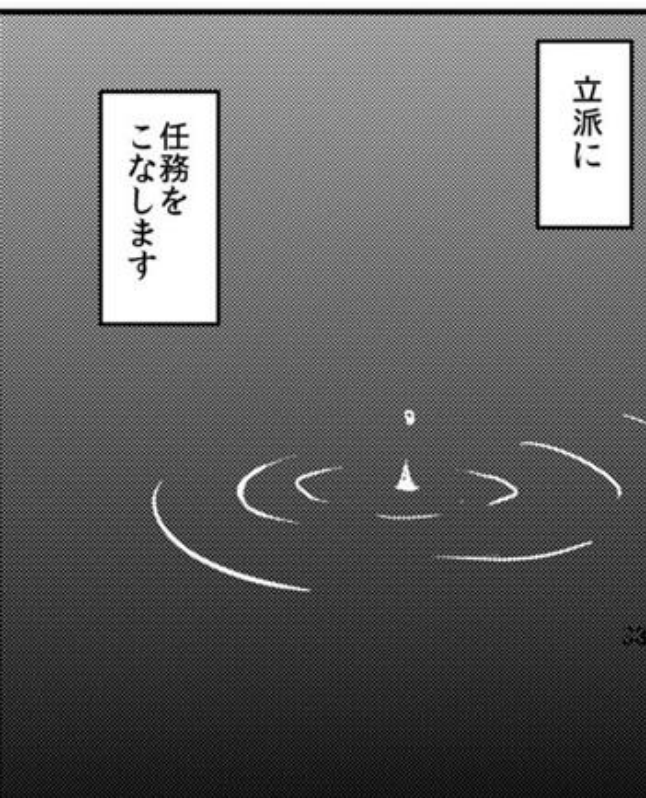




天龍さん

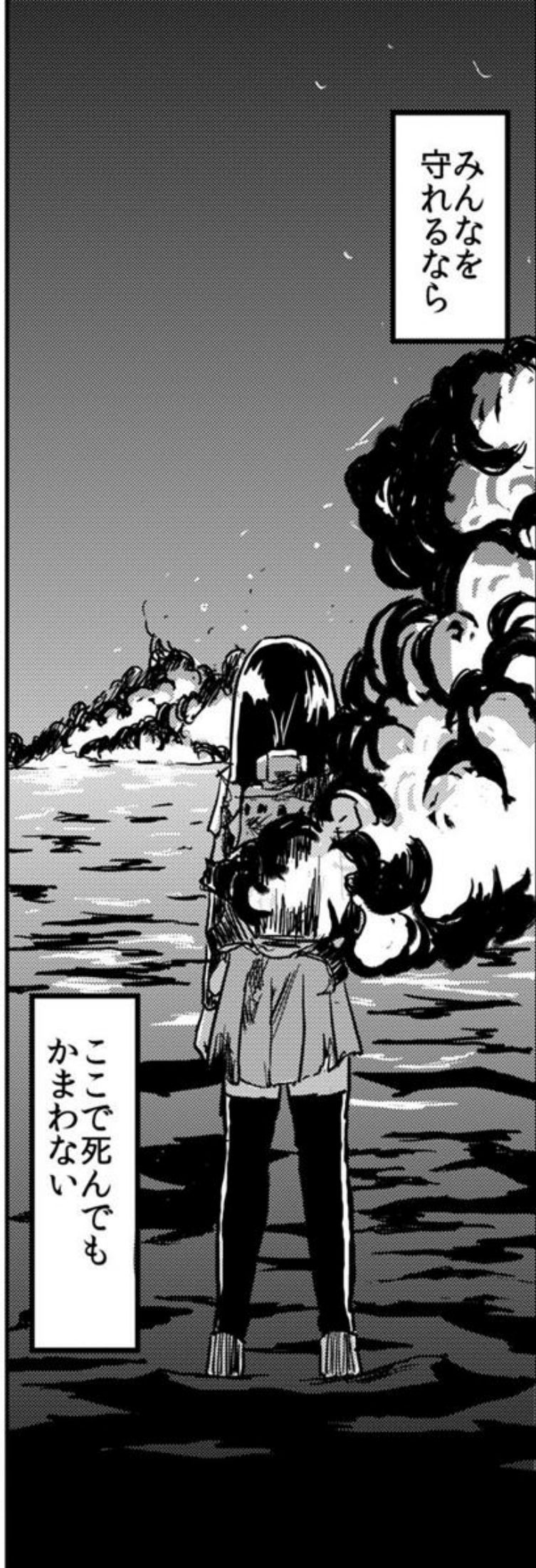


私は…



任務を
こなします

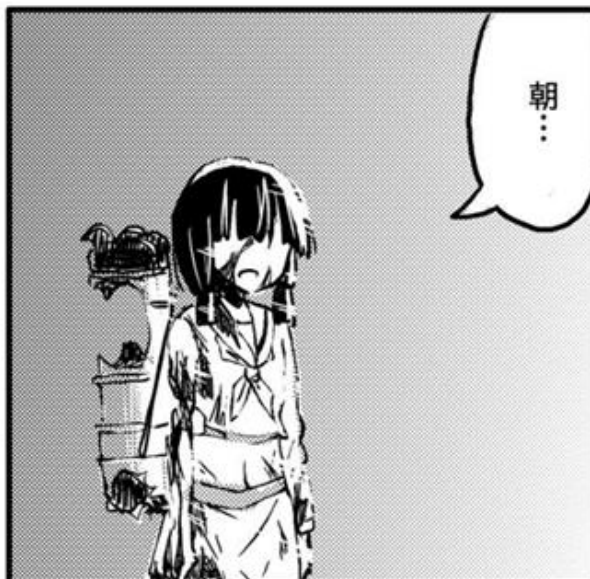
立派に

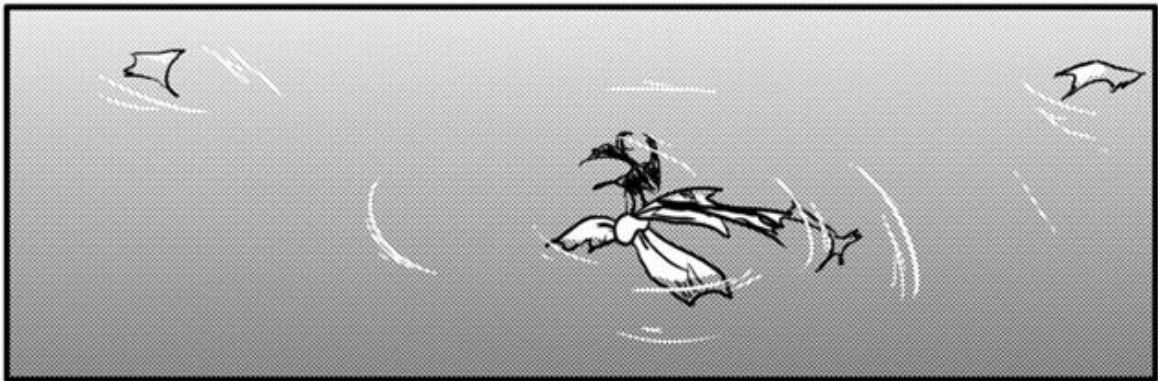


みんなを
守れるなら

ここで死んでも
かまわない















それでも私は
敵飛行場に打撃を
与え続けた！



ま、待ってくれ！

航空兵力もろくにない
まともに戦えるのは
戦艦2隻と雷巡1隻！



補充の船をくれ！

あともう少し！
あともう少しで
勝てるんだ！



もう一度
チャンスをくれ！







その後体勢を立て直した
帝国海軍は総力を挙げ
飛行場を攻撃



飛行場は壊滅したが
周辺泊地の制圧には
至らず

南方海域への進撃は
二年停滞することとなる

あとがき

2013年秋イベントからもう2年がたちましたね。
この話は最近着任した提督には信じられないような話かもしれませんが
実際当時のE-4で行われていた手法です。
このイベントは夜戦装備もろくにないまま実装された夜戦マス、
回復するゲージなどなどいろいろときびしい設定がされていました。
大破撤退が当たり前になったのもこのイベントからだったと思います。
さらに当時は艦これ始まって1年目であり着任したてでろくに
資源・インフラが整ってない提督たちの割合も多かったと思います。
資源は節約したい、レベル1の駆逐艦は腐るほど手に入る、あわよくば攻略したい。
捨て艦戦法が生まれたのはそういった経緯があったと思います。
この戦法はゲージ破壊は微妙な気がします
削りには十分使える方法だったようです。
ちなみに私も少し試してみましたが運要素が強く
こんな気の長い作戦はやっとれんということで早々にやめました。
また毎回の出撃で艦娘の悲鳴を聞くのも耐えられませんでした。

このイベント以降大々的に捨て艦戦法が使われることはなくなりました。
それ自体はいいことだと思いますが
あの頃の話が風化してしまうのもなんだかかなあと思い
今回こうして本にしてみました。

ちなみにこの話は昔pixivにupした「捨て幹ブラ鎮の軽巡たち」
http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=39743577
の続き…のような感じで描いています。冒頭「？」と思われた方も
多かったかもしれませんが、こちらを見ていただけるとなんとなく
納得されるかもしれません。

最後にこのイベントだけでなく深海棲艦との戦いで戦死された艦娘の皆様の
ご冥福を祈りつつあとがきを終えさせていただくことにします。
ここまで読んでくださってありがとうございました。

※奇しくもこの原稿を描いていた時に第二次SN作戦が発動されました。なんだか
不思議な縁を感じました。

おくづけ

執筆者:ki-51
発行日:2015年9月20日
出版社:株式会社 栄光

mail:99guntei@gmail.com
twitter:@99gunntei
pixiv:378135

発行元:あんぷらりあ

リコリス航空基地、この小さな飛行場を撃破するための航空兵力が不足していた帝国海軍は、夜間に艦砲射撃を行うことを提案した。その際戦艦らが飛行場攻撃に専念できるよう敵艦隊を引き付ける囹艦隊が多用された。彼女らは「捨て艦」と呼ばれ練度の低さもあり多くの艦娘が犠牲となった。マリアの療養から復帰した軽巡天龍は捨て艦作戦に従事した軽巡木曾の安否を尋ねるが…。

艦隊これくしょん
ファンブック
あんぷらりあ
